| | 正上未向も | 轉門学校 | 開講年度 平成31年度 (2 | 2019年度) | 授業科 | 料目 フ | ペレーティングシステム | | | | |
|----------|--------------|---|---|---|--|--|---|--|--|--|--|
| 小田型 | 碰情報 | 13133 171 | 1 | | 3242141 | | | | | | |
| <u> </u> | | 0108 | | 科目区分 | 専門 | 専門 / 必修 | | | | | |
| 授業形態 | ŧ | 授業 | | 単位の種別と単位 | 数履修 | §単位: 2 | | | | | |
| 開設学科 | 1 | 電子情報 | 工学科 | 対象学年 | 3 | | | | | | |
| 開設期 通年 | | | | 週時間数 | 2 | | | | | | |
| | | | 「オペレーティングシステムの基礎」 i多郎(岩波書店)等 | 大久保英嗣(サイ | 大久保英嗣(サイエンス社)参考書:「オペレーティング | | | | | | |
| 担当教員 | Į | 箕浦 弘人 | | | | | | | | | |
| 到達目 | 標 | | | | | | | | | | |
| オペレー | ティングシ | ステムの基本 | 的な概念や技法を理解し, オペレーテ | ィングシステムのち | ナービスに | 関する専 | 門知識を身につけ, 説明できる. | | | | |
| ルーブ | リック | | | - | | | | | | | |
| | | | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | | | | | | | |
| 評価項目 | 11 | | OSの基本的な概念や技法を理解し , 問題を解くことができる. | OSの基本的な概念や技法 説明できる。 | | こついて OSの基本的な概念や技法に 説明できない. | | | | | |
| 評価項目2 | | | OSのサービスについて理解し, 問題を解くことができる. | OSのサービスについて説明できる | | | OSのサービスについて説明できな | | | | |
| 学科の | 到達目標I | 1日との関 | | - | | | <i>ι</i> ν. | | | | |
| 教育方 | | <u> </u> | TND | | | | | | | | |
| | <i>,</i> 44 | 計算機シ | ステム, アルゴリズムとデータ構造, の中で実現されている基本的な概念や: | ソフトウェア構築法 | などさまる | ざまな分 | | | | | |
| 概要 | | | | | | | | | | | |
| 授業の進 | め方・方法 | 計算機シ システム | 算機システム,アルゴリズムとデータ構造,ソフトウェア構築法などさまざまな分野と関連が深いオペレーティング ステムの中で実現されている基本的な概念や技法について理解する. | | | | | | | | |
| | | 講義形式 | で授業を行う. | | | | | | | | |
| | | <到達目 | 標の評価方法と基準>各週の到達目標を する.各週の到達目標の評価の重みは | を網羅した問題を 2 概ね均等である 🗊 | 回の中間試 | 大験, 2回 | 回の定期試験で出題し、目標の達成法で60点以上の場合に日標の達成 | | | | |
| | | 成とする | | | | | | | | | |
| | | | 績の評価方法および評価基準>前期中間 ポート1報につき5点を最終評価から | | | | D試験の平均点で評価する. ただし | | | | |
| | | <単位修 | 得要件>学業成績で60点以上を取得す じめ要求される基礎知識の範囲>「マー | すること | · · · · · · · · · · · · · · · · · · · | | - MA - TO 1 A - TO 1 | | | | |
| 注意点 | | ーーテムのハ | ードウェアとソフトウェアに関する基 | 礎的な知識が必要で | ゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙ | | | | | | |
| | | | ト等>適宜、課題を与え、それに対する | るレポート提出を求る | める | · | 14 / PD + + - 7 N D - + + - | | | | |
| | | < 偏考 > の 計算機の | ト等>適宜,課題を与え,それに対するこの教科は後に学ぶ「情報通信ネット」前に座る時間をできる限り確保し,コ | ノーク」 「計算機ノ [、] ンピュータとUNIX) | ーキテクナ オペレーテ | ーヤ」等と ーィングミ | ニ強く関連する科目である。また、 レステムの環境に慣れ、そして使し | | | | |
| | | こなせる | よつにしていたたさたい. このよつな | 経験を積み重ねるこ | ことによって | てはじめ | て,この分野をより深く理解でき | | | | |
| 授業計 | 画 | 1000010 | | | | | | | | | |
| | | 週 | 授業内容 | Ŋ | 司ごとの到 | 達目標 | | | | | |
| | | 1週 | オペレーティングシステムとは | | 3C C 0711 | | | | | | |
| | | | カベレ ナインフンステムこは | | | ーティン | ッグシステムの役割を説明できる. | | | | |
| | | 2週 | オペレーティングシステムの構成法 | | 1. オペレ 2. オペレ | | グシステムの役割を説明できる. グシステムの構成法について説明 | | | | |
| | | 2週 | | 2 | 1. オペレ 2. オペレ ごきる. | ーティン | グシステムの構成法について説明 | | | | |
| | | 2週 | | ·理 | 1. オペレ 2. オペレ ごきる. 3. オペレ 説明 | ーティン | | | | | |
| | 1stO | 3週 | オペレーティングシステムの構成法 オペレーティングシステムの運用と管 | 理 | 1. オペレ 2. オペレ できる. 3. オペレ 説明 できる. | ーティン | グシステムの構成法について説明グシステムの管理と運用について | | | | |
| | 1stQ | 3週 | オペレーティングシステムの構成法 オペレーティングシステムの運用と管 プロセスとスレッド | 理 | 1. オペレ 2. オペレ できる. 3. オペレ 説明 できる. 4. プロセ | ーティン | ・グシステムの構成法について説明・グシステムの管理と運用について ・ッドについて説明できる. | | | | |
| | 1stQ | 3週 4週 5週 | オペレーティングシステムの構成法 オペレーティングシステムの運用と管 プロセスとスレッド マルチプログラミングの概念 | 理 記 2 | 1. オペレ 2. オペレ できる. 3. オペレ 説明 できる. 4. プロセ 5. マルチ | ーティン ーティン ス・スレ プログラ | グシステムの構成法について説明 グシステムの管理と運用について ッッドについて説明できる. ラミングについて説明できる. | | | | |
| | 1stQ | 3週 | オペレーティングシステムの構成法 オペレーティングシステムの運用と管 プロセスとスレッド | 理 記 2 3 3 7 7 8 7 8 7 8 8 9 8 9 8 9 9 9 9 9 9 9 9 | 1. オペレ 2. オペレ できる. 3. オペレ 説明 できる. 4. プロセ 5. マルチ | ーティン ーティン ス・スレ プログラ | ・グシステムの構成法について説明・グシステムの管理と運用について ・ッドについて説明できる. | | | | |
| 前期 | 1stQ | 3週 4週 5週 | オペレーティングシステムの構成法 オペレーティングシステムの運用と管 プロセスとスレッド マルチプログラミングの概念 | 理 記 2 2 3 3 4 4 5 6 6 7 | 1. オペレ 2. オペレ 2. オペレ できる. 3. オペレ 説明 できる. 4. プロセ 5. マルチ 5. スケジ | ーティン ーティン ス・スレ プログラ | グシステムの構成法について説明 グシステムの管理と運用について ッッドについて説明できる. ラミングについて説明できる. | | | | |
| 前期 | 1stQ | 3週 4週 5週 6週 | オペレーティングシステムの構成法 オペレーティングシステムの運用と管 プロセスとスレッド マルチプログラミングの概念 スケジューリングアルゴリズム (1) | 理 記 2 2 3 3 4 4 5 6 6 7 | 1. オペレ 2. オペレ 2. オペレ ごきる. 3. オペレ 逆きる. 4. プロセ 5. マルチ 5. スケジ 5. | ーティン ーティン ス・スレ プログラ | グシステムの構成法について説明 グシステムの管理と運用について ッッドについて説明できる. ラミングについて説明できる. | | | | |
| 前期 | 1stQ | 3週 4週 5週 6週 7週 | オペレーティングシステムの構成法 オペレーティングシステムの運用と管 プロセスとスレッド マルチプログラミングの概念 スケジューリングアルゴリズム(1) スケジューリングアルゴリズム(2) | 理 記 2 2 4 | 1. オペレ 2. オペレ 2. オペレ できる. 3. オペレ 5. プロセ 5. マルチ 5. スケジ 3. | ーティン ーティン ス・スレ プログラ | グシステムの構成法について説明 グシステムの管理と運用について ッッドについて説明できる. ラミングについて説明できる. | | | | |
| 前期 | 1stQ | 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 | オペレーティングシステムの構成法 オペレーティングシステムの運用と管 プロセスとスレッド マルチプログラミングの概念 スケジューリングアルゴリズム (1) スケジューリングアルゴリズム (2) 前期中間試験 並行プロセスと共有資源 プロセスの同期と相互排除 (1) | 理 [] [] [] | 1. オペレ 2. オペレ ごきる. 3. オペレ 説明 ごきる. 4. プロセ 5. マルチ 5. マルチ 5. エアチ 3. 上記 6 | ーティン ーティン ス・スレ プログラ ューリン | グシステムの構成法について説明がシステムの管理と運用についてシッドについて説明できる。 ラミングについて説明できる。 ラミングについて説明できる。 グアルゴリズムについて説明でき | | | | |
| 前期 | 1stQ | 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 | オペレーティングシステムの構成法 オペレーティングシステムの運用と管 プロセスとスレッド マルチプログラミングの概念 スケジューリングアルゴリズム (1) スケジューリングアルゴリズム (2) 前期中間試験 並行プロセスと共有資源 プロセスの同期と相互排除 (1) プロセスの同期と相互排除 (2) | 理 言 : : : : : | 1. オペレ 2. オペレ 2. オペレ 2. オペレ 3. サペレ 5. プロセ 5. マルチ 5. スケジ 3. 上記 6 7. 並行プロセ 上記 8 | ーティン ーティン ス・スレ プログラ ューリン ロセスと スの同期 | グシステムの構成法について説明がシステムの管理と運用についています。シッドについて説明できる。ショングについて説明できる。シグアルゴリズムについて説明できる。システルゴリズムについて説明できる。出と相互排除について説明できる。 | | | | |
| 前期 | | 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 | オペレーティングシステムの構成法 オペレーティングシステムの運用と管 プロセスとスレッド マルチプログラミングの概念 スケジューリングアルゴリズム(1) スケジューリングアルゴリズム(2) 前期中間試験 並行プロセスと共有資源 プロセスの同期と相互排除(1) プロセスの同期と相互排除(2) プロセス間通信(1) | 理 言 : : : : : : : | 1. オペレ 2. オペレ 2. まる. 3. オペレ ごきる. 4. プロセ 5. マルチ 5. スケ 5 上記 6 7. 並行しセ 2. プロセ 2. プロセ 2. プロセ 2. プロセ | ーティン ーティン ス・スレ プログラ ューリン ロセスと スの同期 | グシステムの構成法について説明がシステムの管理と運用についてかり、ドについて説明できる。 ラミングについて説明できる。 グアルゴリズムについて説明できる. 共有資源について説明できる. | | | | |
| 前期 | 1stQ 2ndQ | 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 | オペレーティングシステムの構成法 オペレーティングシステムの運用と管 プロセスとスレッド マルチプログラミングの概念 スケジューリングアルゴリズム(1) スケジューリングアルゴリズム(2) 前期中間試験 並行プロセスと共有資源 プロセスの同期と相互排除(1) プロセスの同期と相互排除(2) プロセス間通信(1) プロセス間通信(2) | 理 言 : : : : : : : | 1. オペレ 2. オペレ 2. オペレ 2. オペレ 3. サペレ 5. プロセ 5. マルチ 5. スケジ 3. 上記 6 7. 並行プロセ 上記 8 | ーティン ーティン ス・スレ プログラ ューリン ロセスと スの同期 | グシステムの構成法について説明がシステムの管理と運用についています。シッドについて説明できる。ショングについて説明できる。シグアルゴリズムについて説明できる。システルゴリズムについて説明できる。出と相互排除について説明できる。 | | | | |
| 前期 | | 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 | オペレーティングシステムの構成法 オペレーティングシステムの運用と管プロセスとスレッドマルチプログラミングの概念 スケジューリングアルゴリズム(1) スケジューリングアルゴリズム(2) 前期中間試験 並行プロセスと共有資源プロセスの同期と相互排除(1)プロセスの同期と相互排除(2)プロセス間通信(1)プロセス間通信(2)デッドロック(1) | 理 [1] [2] [3] [4] [5] [5] | 1. オペレ 2. オペレ 2. オペ・レ 3. サペート 3. 明る. 4. プロセ 5. マスケ 5. スケ 5 2. 並行ロセ 1. 記 8 9. プロセ 1. 記 9 | ーティン ーティン ス・スレ プログラ ューリン ロセスと スト スト スログラ スログラ | グシステムの構成法について説明がシステムの管理と運用についています。シッドについて説明できる。ショングについて説明できる。シグアルゴリズムについて説明できる。システルゴリズムについて説明できる。出と相互排除について説明できる。 | | | | |
| 前期 | | 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 | オペレーティングシステムの構成法 オペレーティングシステムの運用と管 プロセスとスレッド マルチプログラミングの概念 スケジューリングアルゴリズム(1) スケジューリングアルゴリズム(2) 前期中間試験 並行プロセスと共有資源 プロセスの同期と相互排除(1) プロセスの同期と相互排除(2) プロセス間通信(1) プロセス間通信(2) | 理 [1] [2] [3] [4] [5] [5] | 1. オペレ 2. オペレ 2. オペレ できる. 3. オペレ できる. 4. プロセ 5. マルチ 5. スケジ 3. 上記 6 7. 並行セ 上記 8 9. プロセ 上記 9 | ーティン ーティン ス・スレ プログラ ューリン ロセスと スト スト スログラ スログラ | グシステムの構成法について説明でシステムの管理と運用についてかり、アドについて説明できる。 シングについて説明できる。 グアルゴリズムについて説明できる。 と相互排除について説明できる。 と相互排除について説明できる。 について説明できる. | | | | |
| 前期 | | 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 | オペレーティングシステムの構成法 オペレーティングシステムの運用と管 プロセスとスレッド マルチプログラミングの概念 スケジューリングアルゴリズム(1) スケジューリングアルゴリズム(2) 前期中間試験 並行プロセスと共有資源 プロセスの同期と相互排除(1) プロセスの同期と相互排除(2) プロセス間通信(1) プロセス間通信(2) デッドロック(1) デッドロック(2) | 理 | 1. オペレ 2. オペレ 2. オペレ 2. きる・ペレ 3. オペレ 5. マルチ 5. マルチ 5. ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | ーティン ーティン ス・スレ プロセフン コーリン コセスと ス間通信 ドロック | グシステムの構成法について説明がシステムの管理と運用についてが、ッドについて説明できる。 ラミングについて説明できる。 アグアルゴリズムについて説明できる。 と相互排除について説明できる。 ここのにで説明できる。 ここのにで説明できる。 ここのにで説明できる。 ここのにで説明できる。 ここのにいて説明できる。 ここのにいて説明にいていて説明にいていて説明にいていて説明にいていて説明にいていて説明にいていて説明にいていていていていていていていていていていていていていていていていていていて | | | | |
| 前期 | | 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 | オペレーティングシステムの構成法 オペレーティングシステムの運用と管 プロセスとスレッド マルチプログラミングの概念 スケジューリングアルゴリズム(1) スケジューリングアルゴリズム(2) 前期中間試験 並行プロセスと共有資源 プロセスの同期と相互排除(1) プロセスの同期と相互排除(2) プロセス間通信(1) プロセス間通信(2) デッドロック(1) デッドロック(2) 記憶管理技法の概要 | 理 | 1. オペレ 2. オペレ 2. オペレ 2. きる・ペレ 3. 明る・ロセチ 5. マルケジ 5. マルケジ 5. エカロ 5. エカロセ 5. エカロセ 5. エカロセ 5. エカロセ 1. 1. 記憶 | ーティン ーティン ス・スレ プロセフン コーリン コセスと ス間通信 ドロック | グシステムの構成法について説明でシステムの管理と運用についてかり、アドについて説明できる。 シングについて説明できる。 グアルゴリズムについて説明できる。 と相互排除について説明できる。 と相互排除について説明できる。 について説明できる. | | | | |
| 前期 | | 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 | オペレーティングシステムの構成法 オペレーティングシステムの運用と管 プロセスとスレッド マルチプログラミングの概念 スケジューリングアルゴリズム(1) スケジューリングアルゴリズム(2) 前期中間試験 並行プロセスと共有資源 プロセスの同期と相互排除(1) プロセスの同期と相互排除(2) プロセス間通信(1) プロセス間通信(2) デッドロック(1) デッドロック(2) 記憶管理技法の概要 記憶管理技法(1) | 理 | 1. オペレ 2. オペン 3. ポペン 3. 明る. 4. プルケ 5. ス 5. ス 5. 3. 上記 6 7 | ーティン ーティン ス・スレ プロセフン コーリン コセスと ス間通信 ドロック | グシステムの構成法について説明がシステムの管理と運用についてが、ッドについて説明できる。 ラミングについて説明できる。 アグアルゴリズムについて説明できる。 と相互排除について説明できる。 ここのにで説明できる。 ここのにで説明できる。 ここのにで説明できる。 ここのにで説明できる。 ここのにいて説明できる。 ここのにいて説明にいていて説明にいていて説明にいていて説明にいていて説明にいていて説明にいていて説明にいていていていていていていていていていていていていていていていていていていて | | | | |
| 前期 | | 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 | オペレーティングシステムの構成法 オペレーティングシステムの運用と管プロセスとスレッドマルチプログラミングの概念スケジューリングアルゴリズム(1)スケジューリングアルゴリズム(2)前期中間試験並行プロセスと共有資源プロセスの同期と相互排除(1)プロセス間通信(1)プロセス間通信(1)プロセス間通信(2)デッドロック(1)デッドロック(2)記憶管理技法の概要記憶管理技法(1)記憶管理技法(2) | 理 | 1. オペレ 2. オペレ 2. オペ・レ 3. サる. ペレ 3. 明る. ロセチ 5. スケ 4. プロセチ 5. スケ 4. プロセ 5. スケ 4. プロセ 5. スケ 1. 記8 ロセ 上記8 ロセ 上記9 デッ 上記10 記憶 上記11 | ーティン ーティン ス・スレ プューリン ロセスと ドロック 管理技法 | グシステムの構成法について説明がシステムの管理と運用についてシッドについて説明できる。 ラミングについて説明できる。 グアルゴリズムについて説明できる。 と相互排除について説明できる。 について説明できる。 について説明できる。 | | | | |
| 前期 | 2ndQ | 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 | オペレーティングシステムの構成法 オペレーティングシステムの運用と管 プロセスとスレッド マルチプログラミングの概念 スケジューリングアルゴリズム(1) スケジューリングアルゴリズム(2) 前期中間試験 並行プロセスと共有資源 プロセスの同期と相互排除(1) プロセスの同期と相互排除(2) プロセス間通信(1) プロセス間通信(2) デッドロック(1) デッドロック(2) 記憶管理技法の概要 記憶管理技法(1) | 理 () () () () () () () () () () | 1. オイス・レン2. まるオイス・ペート スポート スポート スポート スポート スポート スポート スポート スポ | ーティン ス・スレブューリン ロセス と ス 間 通 信 で 理技法 | グシステムの構成法について説明できる。 シッドについて説明できる。 ラミングについて説明できる。 シグアルゴリズムについて説明できる。 と相互排除について説明できる。 はこついて説明できる。 について説明できる。 について説明できる。 | | | | |
| | | 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 | オペレーティングシステムの構成法 オペレーティングシステムの運用と管プロセスとスレッドマルチプログラミングの概念スケジューリングアルゴリズム(1)スケジューリングアルゴリズム(2)前期中間試験並行プロセスと共有資源プロセスの同期と相互排除(1)プロセス間通信(1)プロセス間通信(1)プロセス間通信(2)デッドロック(1)デッドロック(2)記憶管理技法の概要記憶管理技法(1)記憶管理技法(2) | 理 | 1. オイス・レン2. まるオイス・ペート スポート スポート スポート スポート スポート スポート スポート スポ | ーティン ス・スレブューリン ロセス 同期 ス間通信 で理技法 | グシステムの構成法について説明がシステムの管理と運用についてシッドについて説明できる。 ラミングについて説明できる。 グアルゴリズムについて説明できる。 と相互排除について説明できる。 について説明できる。 について説明できる。 | | | | |
| | 2ndQ | 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週 | オペレーティングシステムの構成法 オペレーティングシステムの運用と管プロセスとスレッドマルチプログラミングの概念 スケジューリングアルゴリズム(1) スケジューリングアルゴリズム(2) 前期中間試験並行プロセスと共有資源プロセスの同期と相互排除(1)プロセスの同期と相互排除(2)プロセス間通信(1)プロセス間通信(2)デッドロック(1)デッドロック(2) 記憶管理技法の概要記憶管理技法(1)記憶管理技法(2)仮想記憶の概要ページング・セグメンテーション | 理 () () () () () () () () () () | 1. オイス・レン2. まるオイス・ペート はいまる オイス・ペート できる オース・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ | ーティン ス・ス・フェーリン ロセス 同期 通信 にじ が・ 記憶に ご が・ | グシステムの構成法について説明できる。 シッドについて説明できる。 ラミングについて説明できる。 シグアルゴリズムについて説明できる。 と相互排除について説明できる。 はこついて説明できる。 について説明できる。 について説明できる。 | | | | |
| | 2ndQ | 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 | オペレーティングシステムの構成法 オペレーティングシステムの運用と管 プロセスとスレッド マルチプログラミングの概念 スケジューリングアルゴリズム(1) スケジューリングアルゴリズム(2) 前期中間試験 並行プロセスと共有資源 プロセスの同期と相互排除(1) プロセス間通信(1) プロセス間通信(2) デッドロック(1) デッドロック(2) 記憶管理技法の概要 記憶管理技法(1) 記憶管理技法(2) 仮想記憶の概要 | 理 :理 : in 7 | 1. オイス・レン2. まるオイス・ペート はいまる オイス・ペート できる オース・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ | ーティン ス・ス・フェーリン ロセス 同期 通信 にじ が・ 記憶に ご が・ | グシステムの構成法について説明できる。 シッドについて説明できる。 ラミングについて説明できる。 シグアルゴリズムについて説明できる。 と相互排除について説明できる。 はこついて説明できる。 について説明できる。 について説明できる。 | | | | |
| | 2ndQ | 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週 5週 | オペレーティングシステムの構成法 オペレーティングシステムの運用と管プロセスとスレッドマルチプログラミングの概念 スケジューリングアルゴリズム(1) スケジューリングアルゴリズム(2) 前期中間試験 並行プロセスと共有資源プロセスの同期と相互排除(1) プロセス間通信(1) プロセス間通信(2) デッドロック(1) デッドロック(2) 記憶管理技法の概要 記憶管理技法(1) 記憶管理技法(2) 仮想記憶の概要 ページング・セグメンテーション 仮想記憶の管理技法(1) | 理 :理 : in 7 | 1. オペンレン 1. オペンレン 2. きる オペン・レン 3. 明さ 3. 明さ 3. リン 5. ステン 5. ステン 7. ステン | ーティン ス・ス・フェーリン ロセス 同期 通信 にじ が・ 記憶に ご が・ | グシステムの構成法について説明できる。 シッドについて説明できる。 ラミングについて説明できる。 シグアルゴリズムについて説明できる。 と相互排除について説明できる。 はこついて説明できる。 について説明できる。 について説明できる。 | | | | |
| 前期 | 2ndQ | 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 1週 2週 3週 4週 5週 | オペレーティングシステムの構成法 オペレーティングシステムの運用と管 プロセスとスレッド マルチプログラミングの概念 スケジューリングアルゴリズム(1) スケジューリングアルゴリズム(2) 前期中間試験 並行プロセスと共有資源 プロセスの同期と相互排除(1) プロセス間通信(1) プロセス間通信(1) プロセス間通信(2) デッドロック(1) デッドロック(2) 記憶管理技法の概要 記憶管理技法(1) 記憶管理技法(2) 仮想記憶の概要 ページング・セグメンテーション 仮想記憶の管理技法(1) | 理 (1) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4 | 1. オペインレン 2. きょう 3. 明さい 2. きょう 3. 明さい 2. きょう 3. 明さい 2. きょう 3. 明さい 2. きょう 3. ままい 4. ま | ーティンスプューリンプューリンス 間通信 ドロック 記憶の管 | グシステムの構成法について説明できる。 シッドについて説明できる。 ラミングについて説明できる。 シグアルゴリズムについて説明できる。 と相互排除について説明できる。 はこついて説明できる。 について説明できる。 について説明できる。 | | | | |

| | | 11ì | 周] | ファイ | /ル保護・ディ | イレクトリ 上記 1 5 | | | | | | |
|--------|----------|------------------|-------|------------|--------------------|--|------|-----------------------|------|-----|-----|--|
| | | 12ì | 周 : | 二次記憶の割付け技法 | | | 上記15 | | | | | |
| | | 13ì | 周 割 | 割り込みの制御 | | | | 16. 割り込みの制御について説明できる. | | | | |
| | 14週 | | | 入出力 | つの制御(1) | | | 17. 入出力の制御について説明できる. | | | | |
| | 15週 | | 週 二 | 入出力の制御(2) | | | | 上記17 | | | | |
| | | 16ì | 周 | | | | | | | | | |
| モデルコ | アカリ | Jキュ ⁵ | ラムの | 学習 | 内容と到達 | 目標 | | | | | | |
| 分類 | 分類 | | 分野 | | 学習内容 | 3内容 学習内容の到達目標 | | | 到達レ^ | ジレ | 授業週 | |
| | | | | | | コンピュータシステムにおけるオペレーティングシステムの位置 づけを説明できる。 | | | | 4 | | |
| 専門的能力 | 分野短門工艺 | 野別の専 T学 | 情報系分野 | | , システムプ ログラム | プロセス管理やスケジューリングなどCPUの仮想化について説明できる。 | | | | 4 | | |
| | . 5.22 5 | | | | | 排他制御の基本的な考え方について説明できる。 | | | | 4 | | |
| | | | | | | 記憶管理の基本的な考え方について説明できる。 | | | | 4 | | |
| 評価割合 | | | | | | | | | | | | |
| | 試験 | | | 課題 | | 相互評価 | 態度 | 発表 | その他 | 合計 | | |
| 総合評価割合 | | 100 | | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 100 | | |
| 配点 | | 100 0 | | 0 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 100 | | |